

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800491		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」		
所在地	日高郡新ひだか町静内中野町2丁目12番6号		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173800491&amp;SCD=370">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173800491&amp;SCD=370</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本的な生活をしっかり支援すること。食事、排泄、入浴、睡眠です。それが出来て初めて利用者様は安心して生活できると考えています。日常生活の中で本人が望む小さなことえを支援しています。大きな希望をかなえるのも大事ですが、その前に小さな日常なことを自由に出来る環境を整えています。又、できる限り朝、まだ眠たい人は寝てもらい、食事を食べたくない人には、本人が食べたい時間に提供したりしています。強制はしません。その分業務自体がずれ込んでしまうことも、しばしばです。動ける人と動けない人が混在しているので、どちらか優先順位を決めそれに合わせています。本人のペースを尊重することが一番適していることとなります。その分時間はかかりますが丁寧な介護をしています。食事も遅い人、早い人、いろいろまぜて食べる人、さまざまですが、その人がそのときどれだけ満足できるかどうかを視点に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな住宅地に、認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」がある。法人のデイサービスや共同生活支援ハウス、包括支援サポートセンターが隣接し、ゆったりとした流れの中に、認知症であっても楽しく一緒に、一人ひとりが尊重された普通の生活を、安全に安心して出来る場所づくりを目指し、利用者のペースに合わせ掃除・洗濯・料理を一緒に行いながら、楽しい日々を過ごせる支援が来ています。運営推進会議も2ヵ月毎に行い、ほほ笑みハウス独自の会議内容では隣接事業所と合同で行い、行事案内や避難訓練等への地域住民の参加へと繋がっている。法人全体の身体拘束委員会研修にも取り組み、日々の実践に繋げています。医療機関との連携の下、その人らしく生きる事を支援するホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	有限会社 静内ケアセンター 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	移動などもあり新しい職員が入り理念の共有が必要なため朝の引継ぎ時唱和しているが、改めて理念の意義、意味を深める話し合いが必要と考えます。	基本理念「ほほ笑み10か条」を作り、朝の唱和、理念の意義などを話し合いながら、理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており行事などに入居者様の状態を見て参加することもあります。又今年度もお茶会を開いてくれました。	夏祭り、資源回収、町内交流に参加したり、ボランティアの方のお茶会を通じた交流、事業所の行事に参加して頂き交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の機能を新しく設置したサポートセンターを通じて広く案内をしています。自治会の方から「認知症について」婦人部の集まりでお話してくれないかと、頼まれるようになりました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ご家族、自治会などご案内して参加していただいています。職員やサービス状況を報告しながら、ご家族の要望や、意見を取り入れ、サービス向上に役立っています。また苦情などをお話していただける雰囲気を作って行きたい。	2か月に1回ほほ笑み独自で行ったり、会議内容では法人と合同で行い、自治会の方や包括、家族が参加して、現況報告や今後の予定、避難訓練等の報告・検討を行っている。自治会の方からは、認知症の方への対応について要望があるなど、推進会議を活かした取り組みに繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合、福祉課などと情報の共有を図っています。町の担当者には栄養指導などの研修をしていただいています。又国の就労支援事業にも協力させていただいています。	町の福祉課とは密な情報交換を行い、歯科、栄養等の出前講座を受けたり、日高振興局の就労支援事業を引き受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自社が行う研修で、より具体的な行為確認をしている。3ヶ月に一回「身体拘束廃止委員会」を開催し、取り組んでいる。	法人全体で身体拘束委員会を立ち上げ「10の禁句」を作り、掲示、研修、会議等で話し合い日々の実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自社研修で勉強会を開き、又「身体拘束廃止委員会」で勉強会を開き、委員会でも確認しあっている。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に勉強会などはしていません。しかし既にご家族に情報提供し成年後見制度を使っています。しかし他に利用できる入居者がいるかもしれないので、勉強会をやりたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	基本理念、重要事項、契約書、運営規定などお話しして利用者様、ご家族さまより質問を受け、一覧表にて漏れないよう、説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等でご家族等にお聞きしたり、様々な機会にお聞きするようにしています。	家族アンケートを行い要望や意見を取り入れたり、個々の居室には連絡ノートを備えて意見等を求める機会を多くして、毎月の個人便り「ほほ笑み通信」を発信する取り組みを行い、意見反映に繋がっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで意見の場を設けている又、一年に一度管理者は職員の個人面談を行い意見を聞く機会を設けている。毎月2回のミーティングに代表者出席し意見提案を聞く機会を設けています。	ミーティング記録を詳細に残し、職員の気づき、意見を取り入れ、年1回は個人面談などの機会を設け、意見反映に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には管理者を通じて毎月の幹部会議を通じ報告し事業所の状況把握しています。管理者は職員の意見、能力の報告をし、それを賞与の判断材料としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間を立て行われている。また、外部研修への参加も積極的に行われていて管理者が職員の力量を把握し研修に行くことを進めている。又、要望があれば参加できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道GH協議会主催や日高ブロック研修会に参加しています。他ホームの職員の受け入れや、当社主催の勉強会に参加していただいたりしています。又、他ホーム職員不足時に応援しています。又、合同研修会や先進地視察ツアーを実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の話を詳しく聞き、本人の話を傾聴し、今困っていること、要望などを探り早めに対応し寄り添う時間を多くして安心して過ごせるように努力しています。又、居室には馴染みの物を置き落ち着いて過せる場を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には多く面会に来て頂き、話をする中で、その都度ご家族の要望を取り入れるように対応している。又、居室を自由に使って頂けるようになっていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族ご本人から、既往歴生活歴を聞かせて頂き、ご相談させて頂きながら、その方にとって必要とするサービスが速やかに行えるよう注意深く確認させて頂き、ご家族ご本人の不安が解消出来るよう支援させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活することを前提に、その方にも役割を持って頂き、職員と一緒に居られ、常に話し合える関係を保てる様努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や、体調等異変があった時には、連絡させて頂き、状態を報告させて頂いています。毎月お便りを送付させて頂き、近況も報告させて頂いています。イベント等、ご家族の方にも参加して頂けるようお願いさせて頂き、常に報告、相談出来る関係に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用されていた美容室等にも一緒に行ったり、友人の方々にも連絡を取れるよう心がけています。又、訪問された方にも、連絡先をお聞きし、訪問やイベント等にも、参加して頂きやすい環境づくりに努めています。	馴染みの理美容院に通ったり、お茶会のボランティアの方の訪問を楽しみにお茶を頂いたり、お友達の訪問、連絡が取れるよう、支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が入居者の傍らにいて、その場の状況を把握し、トラブルが起こらない様努めています。レクリエーション・外出等一緒に参加しやすい環境づくりに心がけ入居者同士が良い関係を作ってもらえるよう支援させて頂いています。		



認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了だからと言って繋がりが切れるものではなく、ご家族からの相談などに応じたり、その関係者からの相談にも応じています。会社独自の窓口サポートセンターを設置して様々な相談に対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から出来るだけ聞くようにし、本人と相談しながら支援しています。本人の行きたいところにもなるべく行くようにし、会いたい人には電話で連絡し話してもらうようにしています。	家族や知り合い、日々の状態観察、アセスメントの記録の中から、思いや意向の把握が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ファイルにまとめ、時間があればいつでも職員全員が確認できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調には常に気を配り、本人に確認したり、主治医と相談したり、本人がどこまで出来るか見守りし、ゆっくりはつきりと声掛けし支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員がモニタリング、見直しシートに記入し、生活援助計画を作成し、変化があればそれに伴い、現状に合った計画に変えたりして作成しています。	モニタリング、見直しシートを作成しながら、利用者・家族の意見を入れた生活支援計画が作られている。	センター方式を使用していますが、利用者の多方面からの把握、気づき、日々のアセスメントの活用を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はアセスメントシートに記録し、気づきや工夫など、利用者申し送りノートや日誌も活用し、職員で情報の共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援ハウス・デイサービス・訪問介護・GHという多機能を使い交流も多く、家族や本人の希望に応じ医療機関などに行っています。また行事や買い物への送迎等行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には警察や消防、自治会の方や役場、家族に参加して頂いています。また地元の高校生のインターンシップの受け入れもしています。また就労支援事業に参加し1名受け入れもしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に一度の往診に来ていただき話をされながら利用者様も笑顔で受診されています。往診の前に状況報告して24時間体制で対応して頂いています。緊急時はすぐ連絡できる体制と訪問体制を整えています。	かかりつけ医とは2週間に1回往診で対応している。先に状況報告書を出しておき、スムーズな医療連携が出来ています。家族にも随時状況報告がなされている。	

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があれば直ちに連絡し助言を仰いでいます。また、精神科及び、内科の医師より適切に対応して頂いています。主治医から必要時に専門医の受診の了解を頂いたり、看護師も状態が安定するまで、ホームの要請関係なく訪問して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム内での対応ができるかを主治医と相談しながら決められています。ご家族、医療、ホームと連携しながら支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療関係とこまめに連絡を取り状況に応じて対応しています。本人の状態に合わせご希望を聞きながら支援しています。変化があれば、その都度ご家族、医療関係に報告しています。	契約時に重度化や終末期に向けた指針を渡し、終末ケアに関する指定書を取り、本人の状態に合わせた支援が行われ、看取りも経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生予防、再発防止及び、緊急時の対応に関する社内研修や救急救命講習を毎年行っている。3年に一度は受講し、異常があった場合24時間体制で掛かりつけ医と連携をとり対応しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社では防災訓練年2回、避難訓練を2回行い、その他ホーム内で定期的に通報訓練等を行っています。本年度9月に歩いて会館まで避難訓練を実施しました。レスキューキッチンも体験し、家族地域の方も進んで参加してくれています。	防災訓練・避難訓練は、日中対応で行われていますが、夜間対応の訓練が行われていない。	夜間時の通報体制の構築、夜間・冬期等地域の方々を巻き込んだ防災計画、対応を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意欲的にして頂ける言葉かけができていないかを日々考えたり、食事中うまく箸が使えず、食べこぼしてもさりげなくスプーンを用意するような対応を心がけています。	利用者のペースを尊重した対応、声掛け、トイレ介助等、「10の禁句」を頭に入れて、プライバシーを損ねない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、衣類を用意する時、外に行きたい時歩きたい時休みたい時何かしたい時等その都度傾聴しスタッフの判断ではなく、必ず本人様に確認し決めていただきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者様優先で食事入浴外出排泄極力本人の意思とペースに添う様対応しています。本人との意見が合わないときはよく相談しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	クリームを使用したり髪染をしたり本人行きつけの美容院など行けるよう支援しています。毎朝の髪結いも本人の望むように心がけています。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し希望を取り入れた献立を作り能力に応じて利用者様と一緒に準備や後片付けに加わり職員とともに食事しています。外食に行ったり、食べ方に注文を付けづきちんと食べているかに注意しています。	必要な品々を用意して希望の献立を取り入れたり、食材を見ながら献立を考えたり、準備・後片付けを一緒に行い楽しく食事をしていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量的なものはチェックシートで調整し栄養面では町の管理栄養士に研修の中でチェックして頂き一人ひとりの体調を考えてきざみ食やミキサー食を取入れ、量の増減を考え支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き粉を使用し、歯磨きを行い、週2回義歯洗浄を行い、就寝前に義歯洗浄を行っています。又、訪問歯科など利用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促し支援しています。おなかをさすったり、不意に歩き始めたり、きよきよしたりなど、ちょっとした変化を察知して誘っています。又、トイレと表示したりしています。	トイレ排泄パターンを把握したり、様子を見ながらトイレ誘導行い、紙パンツからパットへと自立支援に向けた支援が行われています。夜間はポータブル対応の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最後に排便した日を把握し、飲食物、運動、下剤によって調整しています。下剤もその人の症状を主治医と相談して服用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	歌が好きの方には一緒に歌いながら入ってもらっています。会話など、コミュニケーションをとり入浴してもらっています。現実問題として午後の入浴が多いです。	週2回を目処に、楽しみながら入浴が出来る支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事活動、ボール遊びなど日中の活動を取入れ、個々人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ちょっとした変化を見逃がさず主治医と相談しながら量を減らしたり、増やしたりと、状態に応じた薬の調整をしながら対応しています。服薬しやすいように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き野菜の皮むきボール遊び、買い物、太鼓、外食又、何か作ることが好きな人には道具や材料を一緒に買いに行くなどしています。おしゃれできる様に美容院にも行き気分転換をしています。		



認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や暖かい日など散歩に出かけ、季節を肌で感じて頂いています。美容院に行きたい言われたその日に予約を取ります。服を買いたいとの要望があれば、なるべくその日に行くように支援しています。	散歩、買物、外食、ドライブ、月1回の行事、季節の花見等、要望に合わせた支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で保管するときは、なくす場合もあるので家族と本人に了解して頂き保管しています。出かけるときはお金を使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙など大切何人に一言でも書いて頂いたりしています。電話も自由にかけたり、受けたりします。ホームの用事で電話する時も、最後に声を聴いてもらったりします。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節季節の行事に合わせた飾りや温度、湿度、空気の入れ替え、ふた付きのごみ箱、危険物の除去、汚物入れの除去、使いやすいトイレなどに注意を払っています。	季節に合わせた飾り付け、温度・湿度に注意を払い、居間兼食堂で和気藹々と食事を取り、午後からは、ゆったりとした談話室等、思い思いのところで寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、廊下などに椅子をおき自由に座っていただいたり、利用者同士の関係性を持たすため気の合う利用者様同士とスタッフが一緒になり談笑したりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の趣味だった茶道の茶碗を持って来て頂いたり、手作りの作品を部屋に飾ったり、好きな動物の写真を持って来て頂いたり、仏壇を置いたりなどしています。	居室には馴染みの品々を持ち込み、絵や写真を飾ったり、家族と一緒に工夫して居心地良い居室作りが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりを付けたり、手すりをつけたり、案内文字を付けたり、カギの開け閉めがわかるようにしたり、座椅子を利用したり、硬めのソファや柔らかめのソファを置いたり、時計を見やすいように取り付けたり、蓋付きのごみ箱置いたりして、工夫しています。		



目標達成計画

事業所名 認知症高齢者グループホーム「ほほ笑いハウス」

作成日：平成 24年 3月 26日

市町村受理日：平成 24年 3月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	夜間対応の防災訓練が不十分である。	夜間を想定した防災訓練のシュミレーションを実施する。	夜間を想定した避難訓練を5月から11月までに3回実施予定。	11月末
2	35	センター方式による生活援助計画を作成しているがまだ不十分である。	情報の収集に努め、センター方式を活用した介護計画の作成の充実。	ご家族アンケートを実施する事でご本人像をより詳細に把握し、ご家族の意見、要望などを介護計画に反映していきます。	6月末
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。